

不安定化する世界の穀物需給

本号では世界の穀物需給に大きな影響力を有する南半球の農業大国、ブラジル、アルゼンチン、オーストラリアの3か国について、穀物生産・供給の現状を紹介している。各国とも、いわゆる「新大陸」に属し、広大な農地と圧倒的な農業生産力を有する。食糧を海外に依存せざるを得ない我が国は、今後とも安定的な調達ルート確保に向けての努力が不可欠であり、これら諸国との関係は極めて重要であろう。

しかし、圧倒的な農業生産力を誇るこれら諸国においても、供給の安定性という観点からは内包する問題も多い。近年における世界的な穀物需給構造の変化のなかで、多くの問題も浮き彫りになってきている。

第一に、収量の不安定性が拡大する傾向にある点である。オーストラリアにおいては、100年に一度といわれるような早魃が2年連続して発生した。長期的な生産性の推移を見ると、トレンドとしての上昇傾向とともに、その変動幅が極めて大きくなる傾向が見られる。地球規模の気象条件の変化により、こうした予想外の収量変動は、今後も多くの地域において発生し得るといえる点は、十分考慮しておくべきであろう。

第二に、穀物の生産・流通・加工のあらゆる局面において、国際的な農業資本の支配力がますます強まっている点である。穀物相場の変動リスクが高まるなかで、変化への対応力、資金力に優れた国際穀物資本(メジャー)は、農家へのファイナンス機能を通じてその集荷能力をますます強化させている。また、南米等におけるGM(遺伝子組換え)作物の急速な普及も、種子会社と連携した穀物メジャーの生産農家に対する支配力を増大させている。その影響力は穀物の加工段階においても強まりつつあり、米国・欧州等におけるバイオ燃料製造、中国における大豆油生産などへの進出も著しい。こうした穀物流通におけるメジャーの支配力の増大により、輸入国側はメジャーのビジネススペースの戦略への適合を余儀なくされる傾向が強まっている。ブラジルにおいて我が国の非遺伝子組換え大豆の調達が極めて難しくなっていることも、その一例といえよう。安全性、品質等の面で要求水準の高い我が国の需要を満たすことは、全体的な需給いかにかわらず、ますます難しくなっていく可能性もある。

第三に、世界の穀物需給において、各国の政策的影響が強く反映されつつある点である。そもそも、2006年以降の穀物価格の急速な上昇には、米国のエネルギー政策が大きく影響しており、今後も、各国のエネルギー政策の動向は世界的な穀物需給に大きな影響を及ぼす可能性がある。また、今回の穀物需給逼迫局面において、アルゼンチンが国内政策の観点から穀物輸出の規制を強化したように、輸出国の国内要因によりそれが容易に制約されるものであることも明らかとなっている。

上記の諸点は、今後の我が国の食料調達を考える際に常に考慮しておかなければならない問題である。農産物輸出国とFTAを締結し、良好な経済関係を保っていれば安定的な調達が可能である、との安易な発想が、多くのリスクを内包したものであることには十分留意する必要がある。

((株)農林中金総合研究所 取締役基礎研究部長 原 弘平・はらこうへい)